

草 創 期 篇

“造る”も“走る”もヤミの中…  
ボート・モーターに託した情熱

ボート・モーター製作者座談会

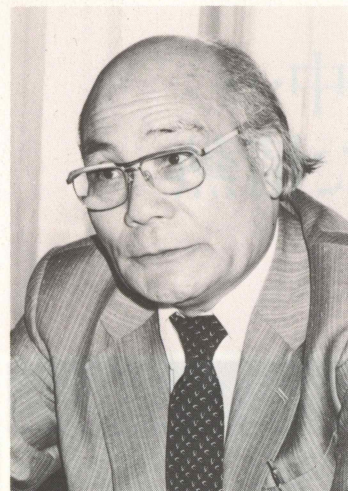


〈昭和56年7月6日〉 笹川記念会館

ボート・モーター製作者座談会出席者紹介

(法制定当時の役職・順不動)

国際競艇興業株式会社専務取締役  
黒川 五郎



キヌタ内燃機製作所生産部門責任者  
安宅 洋二郎



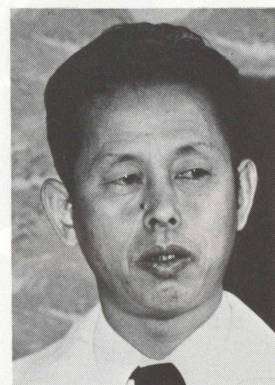
武蔵工機株式会社技術担当  
野口 旭



昭和27年3月26日登録第13号選手  
三津川 要



昭和27年9月10日登録第162号選手  
新堀 一夫



(司会)  
若松 亮任  
社団法人全国モーターボート競走会  
連合会業務部々長(現職)

「ヤマト」モーターの名付親は……

司会 モーターボート競走法が制定されて、ことしの6月18日で満30年を迎えました。本日はご出席のみなさま方に、当時のボート・モーターの状況だとか、その後のいろいろな問題についてお話をお伺いしたいと思います。

最初に、みなさまがこのモーターボート競走に何らかの形でタッチされたわけですが、その経緯などにつきましてお話いただきたいと思います。

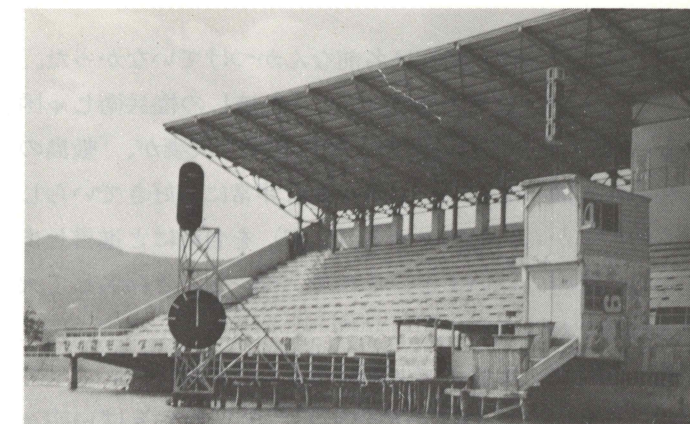
黒川 私は、山本五十六さんと同期の前原海軍大将に、昭和25年の中頃笹川先生を紹介されたのです。そうして翌26年の6月、モーターボート競走法が国会を通過すると同時に笹川先生に呼ばれまして、実はこういうのをやると。ついては、あなたは飛行機の設計屋さんだそうだがボートとかそのエンジンとかをつくってはくれまいかと依頼されたわけです。それで簡単にお約束だけして、その後数回笹川先生とお会いするうちに、何がなんでもつくってくれということになった。そこで、その頃2、3だけあったモーターボートの業者というのに当ってカタログなどをちょうだいしたり、その後墨田川造船さんとか横浜ヨットさんへ行って実物を見たりしたのですが、競走用のものをつくるための資料となるものは何も得られませんでした。

司会 それで初めからみんなご自分で考えられたのですか。

黒川 そうです。2カ月くらいかけて一応構想がまとまった。そこへ銀座のモーターボート商会という会社のセールスマンが、笹川先生の元へマーキュリーというエンジンを売り込みに来たわけです。先生はすっかり乗り気になられて、これはレース用だそうだからこういうのをつくろうと。

司会 カatalogか何かあったわけですね。

黒川 初め、カatalogでももらえればそれに準じたものをつくりましょうと約束した。翌27年になってからそのセー



ルスマンが中古品を持ってきたので先生が22万円で買い、自分で乗ってみて具合がいいと。同じものをつくれと言われた。それからアウトラインをスケッチして、自分で大体の構想を立てたのです。しかし大村、津でのレースには間に合わなくて、やっと大津に間に合ったのです。そのためその間にマーキュリー、クリスクラフトを買い込んできて、それに問題があったりいろいろありました。私のが早くできればそういうこともなかったのですが。

司会 「大津」に間に合ったというそれが「ヤマト」です

